



るもい風土資産カード

元陣屋 (総合交流促進施設)

増毛の侍文化を今に伝える
町民の交流の場

増毛町役場に近い町の中心部に位置する「元陣屋」は「増毛町総合交流促進施設」として町民に開放されている、増毛町の歴史を今に伝える施設の一つです。

蝦夷地(現在の北海道)周辺では18世紀頃からロシアが南下して、漁場を経営していた日本人と衝突するなど両国の緊張が高まります。この結果、幕府は東北諸藩に蝦夷地の警備を命じました。安政2年(1855年)に秋田藩が増毛での警備を命じられ、翌年に元陣屋が建てられました。元陣屋の「元」は拠点という意味で、現在の増毛町の永寿町一帯がその跡地です。秋田藩は宗谷と樺太にも陣屋を築いて警備に当たりました。こちらは「出張(でばり)陣屋」と呼ばれ、夏の間だけ警備を行い、冬の間は増毛に戻ってきて越冬しました。秋田藩は足掛け12年間にわたり、警備と開拓に当たりました。ロシアと交戦することはありませんでしたが、建物は非常に簡素な造りで、冬の間には多くの凍死者や病死者が出たといわれています。原因の多くは冬季間の野菜不足による水腫病(現在の壊血病)といわれており、多い年では一冬で30人以上が病気で命を落としています。

その跡地に平成7年(1995年)、増毛町が総合交流促進施設「元陣屋」を建設しました。施設内の郷土資料室では当時の様子や増毛町の侍文化を学ぶことができます。このほか図書室や会議室、多目的ギャラリーなどがあり、町内外の方々に生涯学習・文化発信の場としても利用されています。

見どころ

施設内の映像体験室では、当時の警備の様子を約8分間にまとめた解説映像を鑑賞できます。また、郷土資料室には解説パネルや古地図、ジオラマなどの資料が展示されています。当時の建物の一部も復元されていて、厳しかった暮らしぶりをしのべます。

ポイント

郷土資料室には鎧(よろい)の試着体験コーナーがあります。「施設を訪れた記念に…」と鎧を着て侍気分になり、記念写真を撮る見学者もいます。

五感で感じる! 風土資産の魅力

聴 触 味 嗅 知

触
わる

資料展示室に保管されている鎧は試着が可能。
幕末期にロシアに対する西蝦夷地警備にあたるため、津軽藩や秋田藩の元陣屋が増毛に置かれ、北方警備の要衝となった歴史を思い起こさせます。

知
る

郷土資料展示室、図書室、映像体験室などがあり、北方警備の拠点として建設された元陣屋の歴史、増毛の鯨漁の歴史などを学ぶことができます。

■基本情報(R7.3)

住 所：増毛郡増毛町永寿町4丁目49番地
T E L：0164-53-3522
開館時間：9:00~17:00
休 館 日：毎週木曜日(ただし、祝日の場合は前日)
観 覧 料：一般・大学生400円(団体300円)
高校生300円(団体200円)
小・中学生200円(団体100円)
※団体は10名以上、就学前幼児は無料